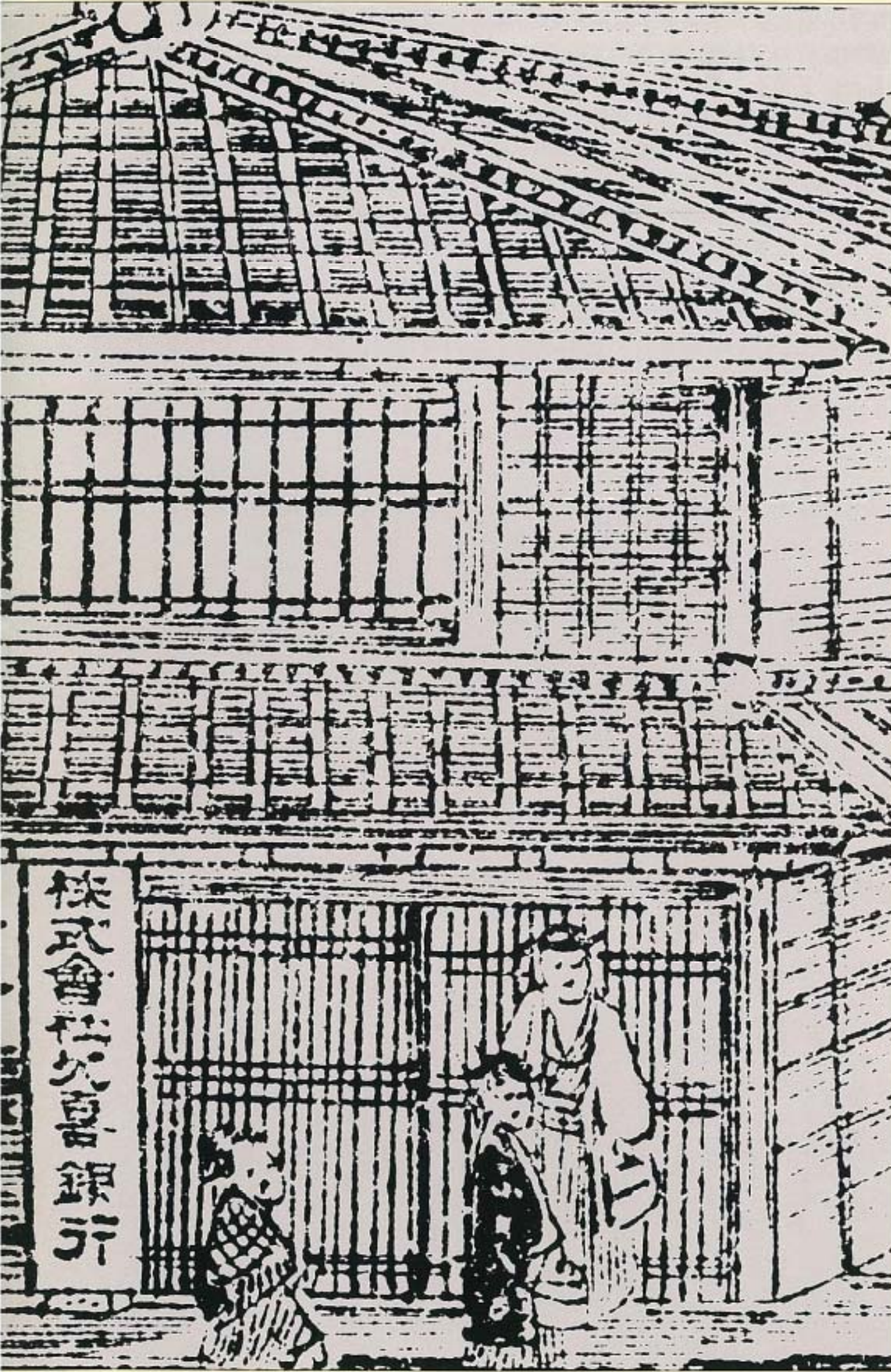


第6回企画展

久喜銀行 — 消滅までの道程



久喜市公文書館

平成9年2月12日(水)～3月23日(日)

開催にあたって

金融史を振り返ってみますと、明治4年に商工業の自由選択、農民に作物の勝手作りが許され、同6年には地租がそれまでの物納・石代納から金納に代えられました。当時の農村は、貨幣経済に支配されていたとはいえ、まだ現物経済の面が色濃く残っており、それがこの地租金納により完全に資本主義体制に繰り入れられました。工業も、手工業から小規模ながら工場制生産に移行していき、こうして貨幣や商品の取引を行う金融機関が必要となってきたのです。

埼玉県内で最も早く設立された銀行は、明治11年に川越町に設立された第八十五国立銀行でした。その後、明治19年までに合計19の銀行が設立されましたが、このうち9行は明治26年までに姿を消しております。この時期の銀行は、必ずしも強固な経営基盤をもっていなかったようです。

今回の第6回企画展では、こうした銀行設立の流れの中で、久喜町に最初に誕生した「久喜銀行」について紹介することにいたしました。久喜銀行が商業の発展と関わりながら誕生していったようす、また、その経営内容はどうか。さらに戦争、大震災、金融恐慌という混乱する時代を渡りながら、波乱に満ちた銀行の生涯を閉じていく過程を、わかりやすく当時の原資料をもとに展示いたしました。

『久喜銀行』という小さな地方銀行の資料が散逸されずに、これほど多量に残されていることは、とても画期的なものと思います。これらは、重要な金融史料として大切に保存していかなければならない、と痛感しております。

最後に、本企画展を開催するにあたり、貴重な資料を提供してくださいました関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

平成9年2月

久喜市公文書館長



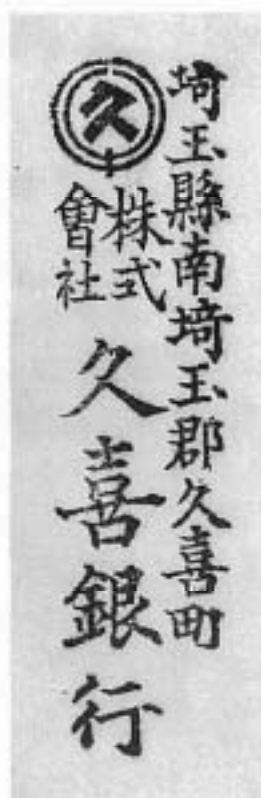
久喜銀行の設立とその背景

久喜町は、江戸時代から近隣諸村で生産される米穀や白木綿の市が開かれ、一大交易地として繁栄してきた。そして、こうした商業的機能は、明治期になって日本鉄道や東武鉄道の開通とともに、ますます強化されることになった。鉄道の開通と久喜駅の設置は、乗客・荷物の運送と生産物の販路拡大につながるため、地元住民の大きな願いだったわけである。

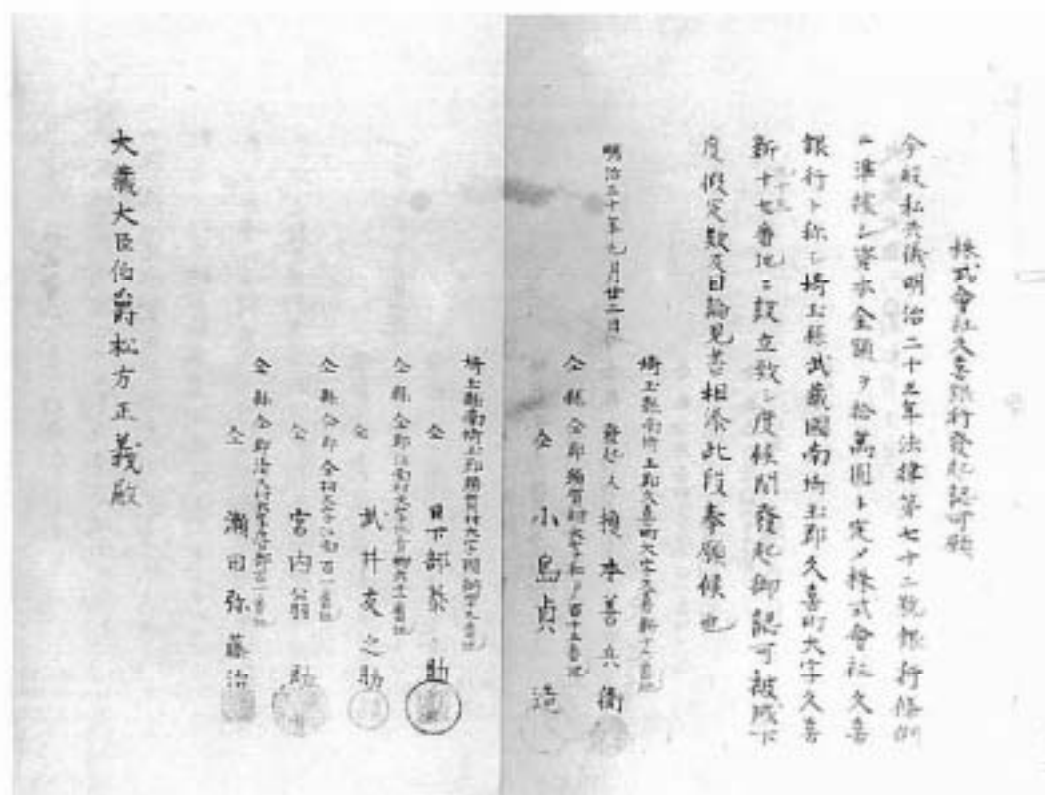
明治期において久喜町を含む南埼玉郡は、愛知、大阪、三重に次ぐ白木綿の生産額を誇り、埼玉県を代表する織物生産地であった。明治41年でみると、久喜町域の生産高は61万反に達し、それは岩槻町に次ぐ量であった。

久喜銀行は、日清戦争後の全県的な銀行設立ブームの中で、こうした白木綿を中心とした商業の発展に大きな期待を寄せながら誕生したのである。

創業

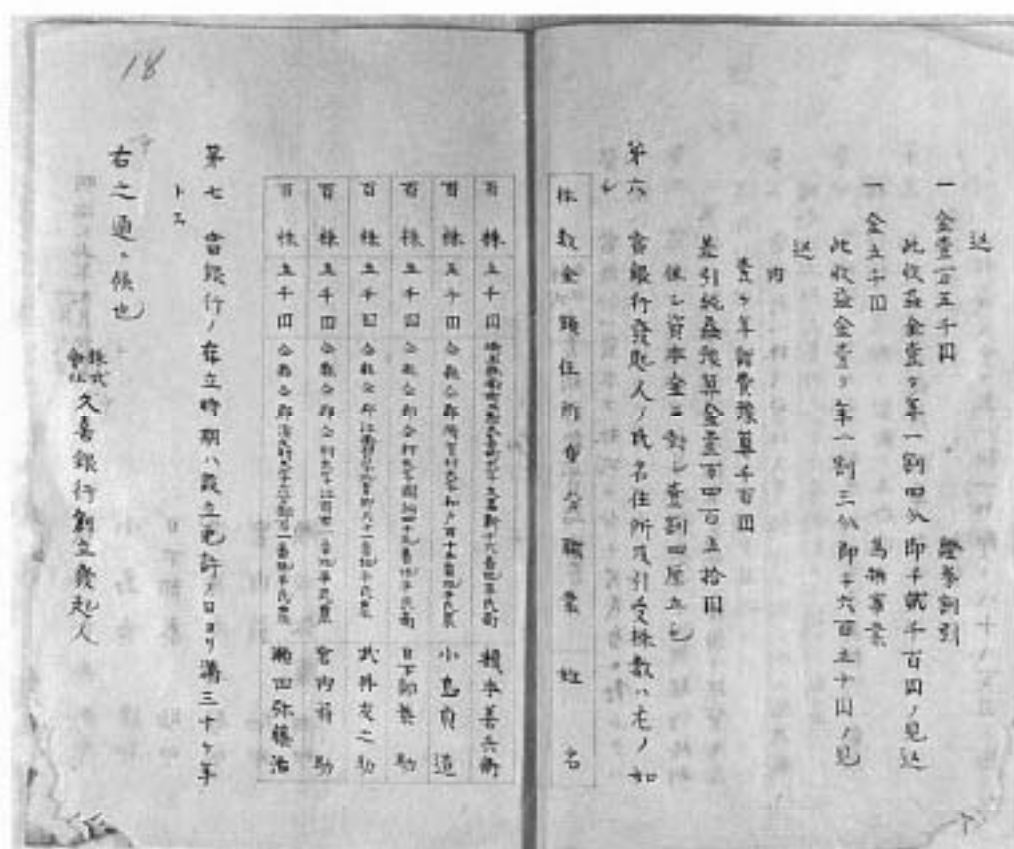


行章・社判



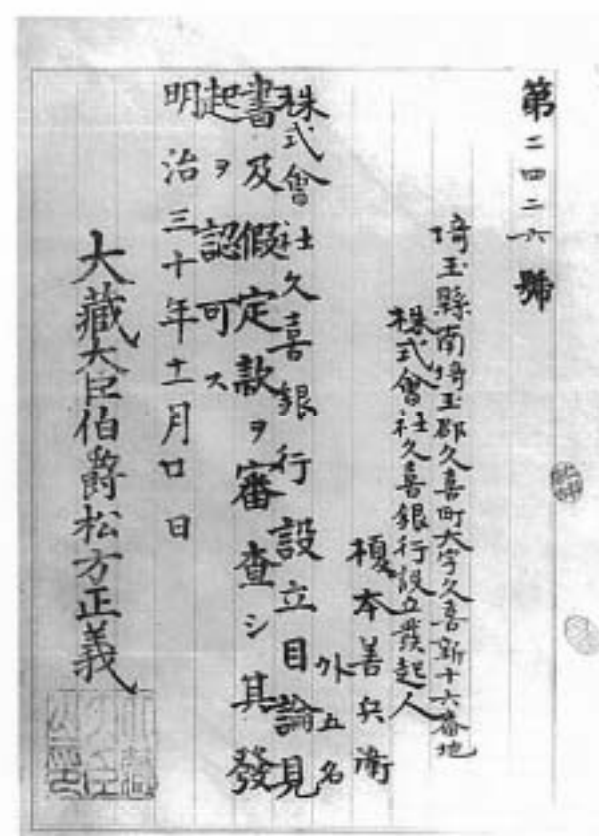
1 久喜銀行發起認可願 明治30年

明治23年の銀行条例に準拠し、当時の大蔵大臣松方正義宛に提出された。



2 久喜銀行設立目論見書 明治30年

7つの項目で構成され、普通銀行の業務を営むことが規定されている。



4 久喜銀行發起認可書 明治30年

久喜銀行設立發起に付調査報告 明治30年

南埼玉郡長黒河内良によって作成されたもので、久喜銀行の設立の必要については、「久喜町周辺は商況が発達している時期であるが、中規模以下の資本に乏しい商家が多いため銀行が必要であった。」と述べている。さらに、その目的は商業金融としての位置付けを明確にしている。

3 久喜銀行設立發起に付調査報告 明治30年

南埼玉郡長黒河内良によって作成されたもので、久喜銀行の設立の必要については、「久喜町周辺は商況が発達している時期であるが、中規模以下の資本に乏しい商家が多いため銀行が必要であった。」と述べている。さらに、その目的は商業金融としての位置付けを明確にしている。

株式
久喜銀行
申合規則

株式會社久喜銀行申合規則

今般株式會社久喜銀行ヲ設立シ合法手續ヲ經テ其營業開始スルニ付重役協議申合規則ヲ定メ其要旨ニテ

第一條 當銀行其營業總テ廉直公平ヲモトメ人ヲ持テテ其營業ヲ輕率ノ事ヲ廢シ神速明瞭ニテ傳佈シテ其營業資本ノ常ニ活潑ナル流用ニ依リテ成金融ニ便利ナル状態ヲ以テ貸借ノ目的ヲ爲シ保留金等ノ結果之ニ注意ス

取締役會及重役權限

第二條 取締役は毎月三回開會シ重要ノ業務ヲ施行スルニ事關シトシ其會議ノ開會決議法ニテ

5 久喜銀行申合規則 明治31年

合法の手續きを経て久喜銀行の營業を開始するため、重役協議の上で定めた運営上の規則である。

株式會社久喜銀行開業廣告

一明治三十一年三月一日開業

一資本金拾萬圓

一營業場所埼玉縣南埼玉郡久喜町大字久喜新九十三番地

一營業時間午前九時ヨリ午後四時迄

●營業科目

●定期預り金

六ヶ月以上	年六分
一年以上	年七分
三年以上	年八分
五年以上	年九分

●當座預り金

●小口當座預り金

●貸附金

●爲換取組先

東京中井銀行	中井銀行浦和支店	越ヶ谷鈴木銀行
忍野銀行	忍野銀行羽生支店	蕨ヶ谷銀行
柏壁銀行	柏壁銀行幸手支店	加須銀行

此他銀行一般ノ業務ヲ確實丁寧ニ且極メテ御便利ニ取扱ヒ申候間多少ニ拘ハラズ續々御取引被下度奉希望候敬具

株式會社久喜銀行

頭取 榎本善兵衛
専務取締役 宮内新助
取締役 日下部泰助
同 武井友之助
同 小島貞造
同 田島貞造

6 久喜銀行開業廣告 明治31年

発起人・役職



頭取 榎本善兵衛
(1852~1910)



専務取締役 宮内翁助
(1853~1912)



取締役 日下部泰助
(1860~1922)



取締役 武井友之助
(1851~1907)



監査役 瀬田弥藤治
(1840~1930)



監査役 小島貞造
(1859~1925)

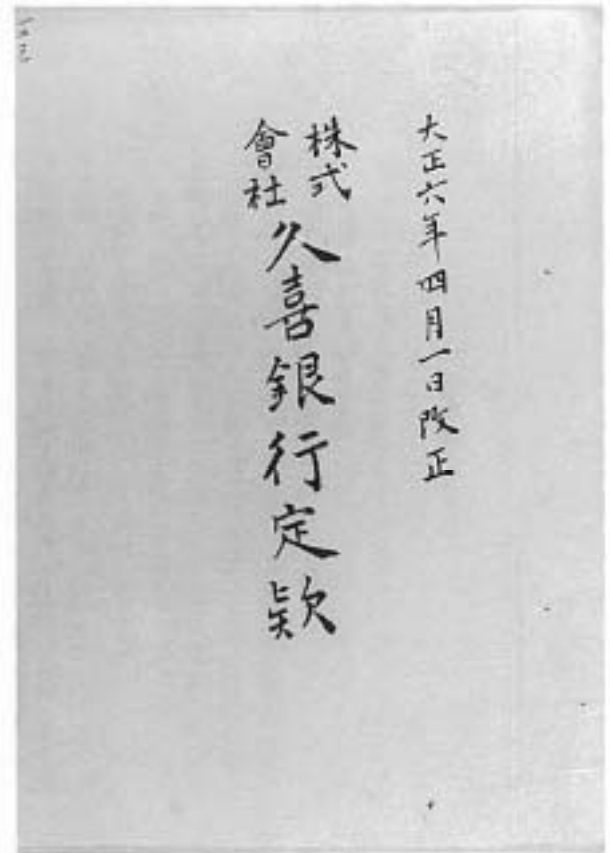
定款



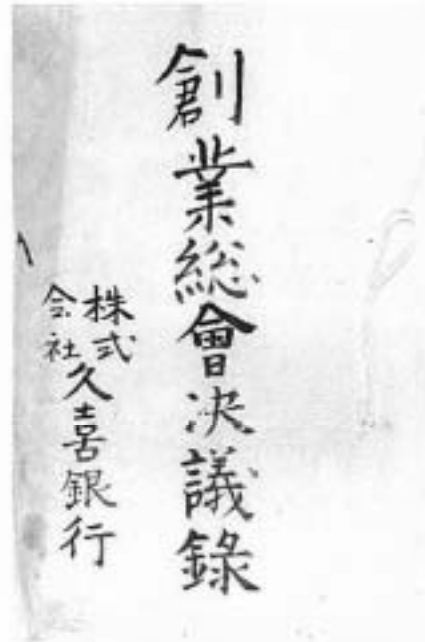
7 久喜銀行仮定款 明治31年
創業時は仮の定款で、全8章
63条で構成されている。



8 久喜銀行定款 大正6年
資本金の減資を中心に定款が変更された。



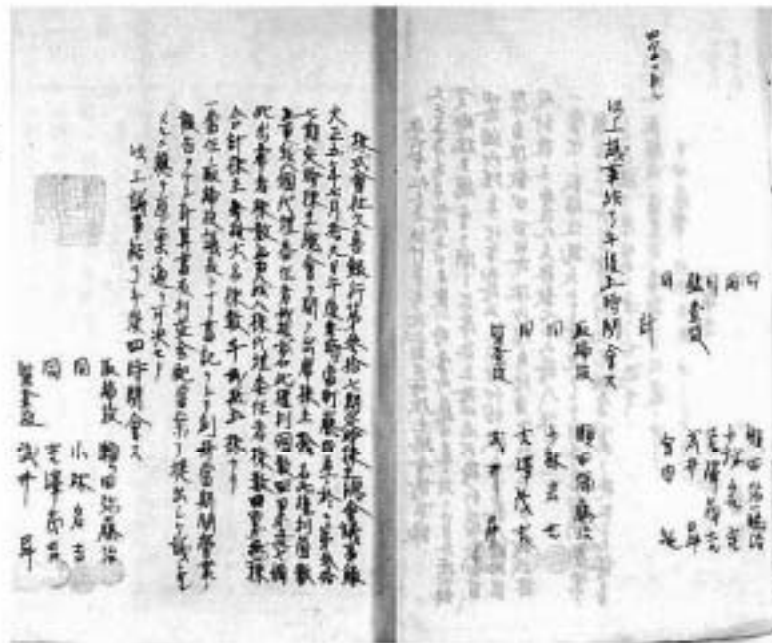
創立会・株主総会



9 創業總會決議録 明治31年

1月9日、榎本善兵衛を会長として株主による創業總會が開かれ、定款の承認、取締役および監査役の選出、重役の報酬等が決議された。

11 株主定時および臨時總會決議録 明治44年 会社経営上の懸案事項が株主により決議されている。



貯蓄銀行



(左) 12 久喜銀行貯蓄銀行轉業認可願 明治33年 当時の久喜銀行は貸出超過の傾向が続いていたため、預金を主とする貯蓄銀行業務の兼営に移行した。

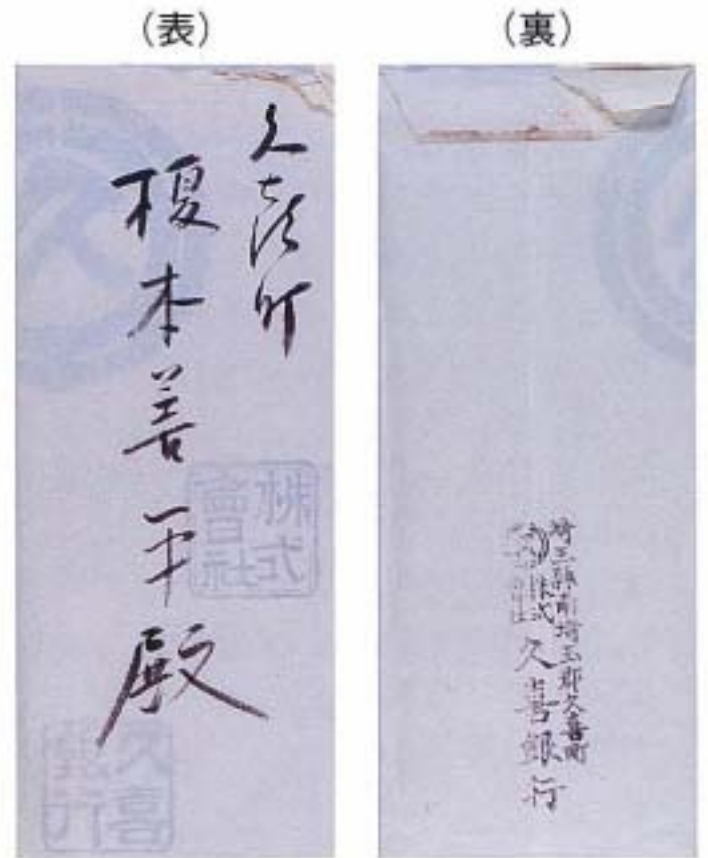
(右) 13 貯蓄銀行業務認可書



株式・取引



15 久喜銀行株券（一株券） 大正6年



21 封筒

當座小切手用法

一此小切手ヲ以テ當座預金ヲ引出スニハ金額並ニ年月日及受取人ノ氏名等ヲ記シ預金主記名調印スヘシ

但預金主會社又ハ組合ナルトキハ必ス其社印ヲ押シ主任者之レニ記名調印スヘシ

一小切手ニハ支拂期日ヲ記載スヘカラス又振出シタル日ト相違セン日附ヲ記載スヘカラス

一小切手ニ用フル印鑑筆跡ハ豫テ銀行ヘ差出スヘシ若シ預金主事做アリテ代理人ヲシテ小切手ヲ振出シタル時ハ其代理人ノ氏名印鑑筆跡ヲ銀行ヘ届出ヘシ

一小切手ニ記載スル金額ハ壹圓拾分等ノ文字ヲ用ヒ一二十等ノ文字ヲ用フヘカラス

一小切手ニ誤字ヲ記シタルハ未練ニテ消シ之ニ捺印シ傍ラニ正字ヲ記スヘシ若シ此式ニ據ラズレテ文字ヲ消改シ又ハ書入ヲ爲シタル小切手ハ銀行ニ於テ支拂ヲ爲ササル事アルヘシ

一此小切手ハ當座預金ヲ引出スヘキ用紙ナレバ預金主ハ大切ニ注意シ若シ火災盜難等ニテ消失シタルハ直チニ其旨ヲ銀行ヘ届出スヘシ

一此小切手紙ヲ用ヒ遺シタルハ未練ノ始取書ニ枚數ヲ記入シ記名調印ノ上銀行ニ請求スヘシ

株式会社久喜銀行

20 小切手綴

年月日	摘要	預金	引出金	繰入金	差引残高
大正6年11月1日	当座預金	10275			10275
大正6年11月1日	当座預金	282			10557
大正6年11月1日	当座預金	51			11068
大正6年11月1日	当座預金		4		11064
大正6年11月1日	当座預金		18		10846
大正6年11月1日	当座預金		55		10291
大正6年11月1日	当座預金			147	10438

19 当座預金通帳

147

當座預金通帳

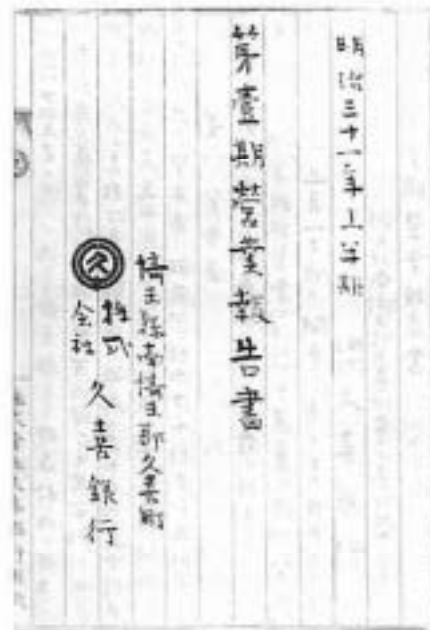
藤田文吉 殿

株式会社久喜銀行

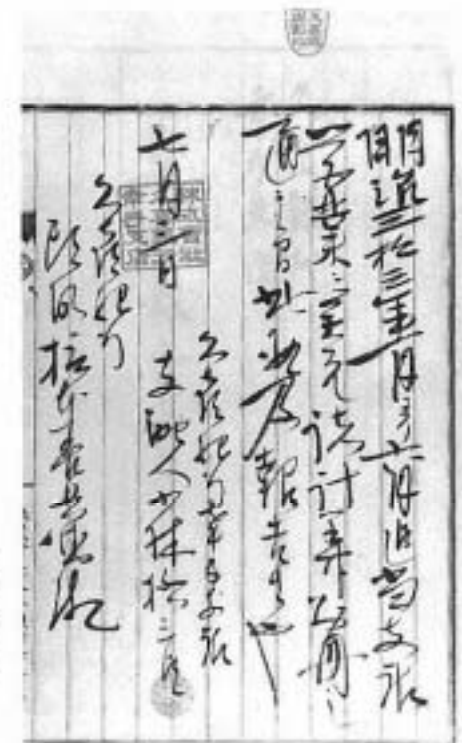
営業報告書が語る当時の景況と久喜銀行

日露戦争は、日本国が勝利を得て明治38年9月にその幕を閉じた。翌39年には未曾有の戦後景気が訪れ、企業勃興の気運と共に日本経済は順調に発展した。久喜銀行もその波にうまく乗り、比較的良好な状態を呈していったが、明治40年2月に金融市場の株価暴落による戦後恐慌が起きると、久喜銀行の経営にも陰りが見え始めた。その後、明治44年11月には、預金者たちの取付け騒ぎが発生した。この騒ぎの主な理由は、重役たちの相次ぐ辞任であった。日下部泰助取締役の辞任後、専務取締役の宮内翁助と頭取の榎本善兵衛が相次いで病気により辞任すると、小林岩吉取締役も辞表を提出した。また、明治40年6月に県内の鈴木銀行の倒産にも影響され、久喜銀行の経営に不安を持った預金者たちは取付けに殺到し、久喜銀行は明治44年11月4日から一週間の休業に追い込まれたのである。幸いにも、この休業は一時的なものであったが、それ以後、慢性的な不況は好転しないまま大正期を迎えていった。

大正期には第1次世界大戦や大正9年の反動恐慌、同12年の関東大震災、そして昭和の金融恐慌へと混乱の時代が続き、大戦や震災の影響は長く尾を引いていくのであった。



22 第1期営業報告書
明治31年
金融逼迫、商工業不振という状況の中で、開業当初から苦しい経営状況を強いられていた。



(右)
23 幸手支店営業報告書
明治33年
明治32年10月、幸手支店を開設したが、その経営内容は決して順調とはいえなかった。



(上) 24 第22期営業報告書 明治42年
日露戦後不況について「白木綿ヲ始メトシ一般ノ商業甚ダ振ハズ」とあり、憂慮すべき事態であったことがわかる。

(右) 28 第52期営業報告書 大正12年
大正12年9月1日の関東大震災による金融界の混乱の情景が詳しく記されている。震災の影響は、大きく傷跡を残しながら大正期を終えていった。



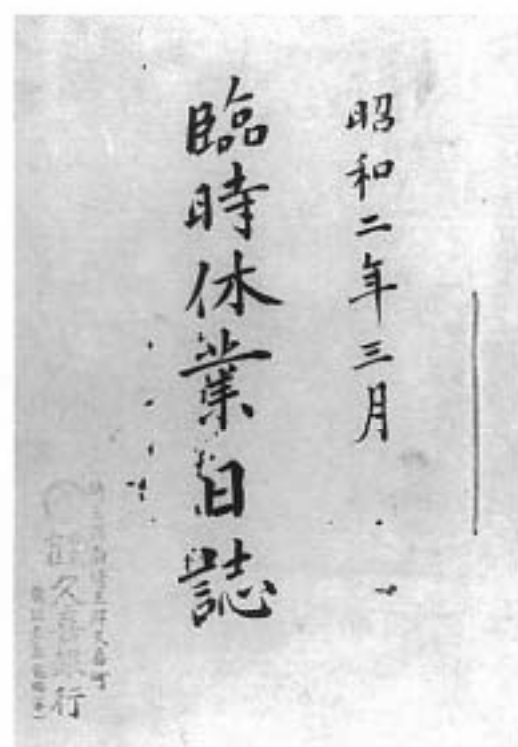
金融恐慌と久喜銀行の消滅

昭和2年の春に起こった金融恐慌は、日本金融界を襲った空前の大恐慌であり、わが国の経済を混乱の渦に巻き込んだ。この原因となったものは、大正9年の株式暴落による大戦後の反動不況、さらには大正12年の関東大震災により、大量の手形が決済不能となったことから始まる。その後、昭和2年3月の震災手形を整理する法案の審議紛糾や当時の蔵相片岡直温の失言などもあり、全国的に取付け騒ぎが起こり多くの銀行が休業に追い込まれたのである。

金融恐慌という未曾有の大恐慌により県下の金融界に大きな打撃を与えたのは、中井銀行の休業であった。昭和2年3月19日からの中井銀行休業の影響をいち早く受けた久喜銀行は、緩慢なる取付け状態となり、やむなく3月22日より休業するに至った。

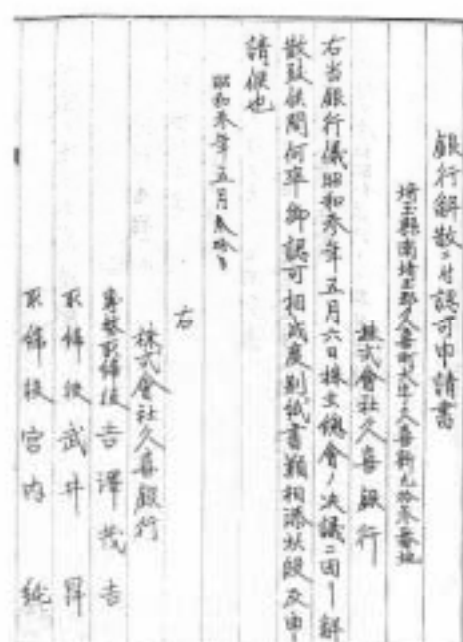
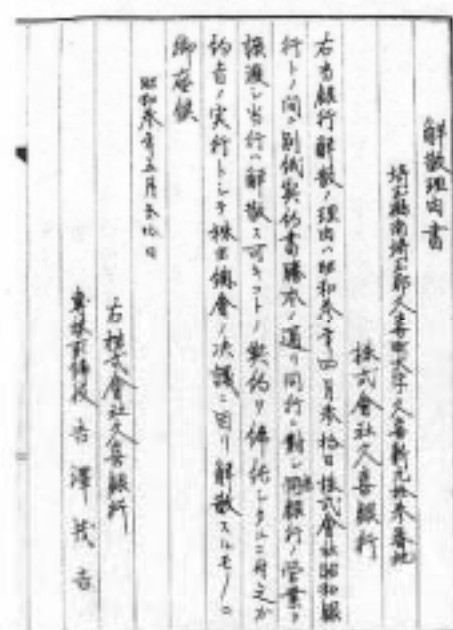
久喜銀行は資本金20万円、預金額165万円（昭和元年末）の小銀行であったため、有効な打開策もなく、結局他銀行との合併による整理案が3月25日の重役会において可決した。

久喜銀行は昭和3年5月、中井銀行とともに昭和銀行に買収されていくことになる。この買収により久喜銀行は、名実共にその姿を消したのである。その後、昭和銀行杉戸支店久喜出張所として経営を続けていくことになるが、昭和6年7月には、この杉戸支店と久喜出張所は忍商業銀行に譲渡されていく。忍商業銀行は、このうちに久喜出張所のみを設置し、昭和9年2月には忍商業銀行久喜支店として姿を変えて新しい銀行が久喜町に誕生したのである。



29 久喜銀行臨時休業日誌 昭和2年

昭和2年の金融恐慌は、久喜銀行の経営に終止符を打つ最大の要因であった。この時の様子は、臨時休業日誌に詳細に記録されている。



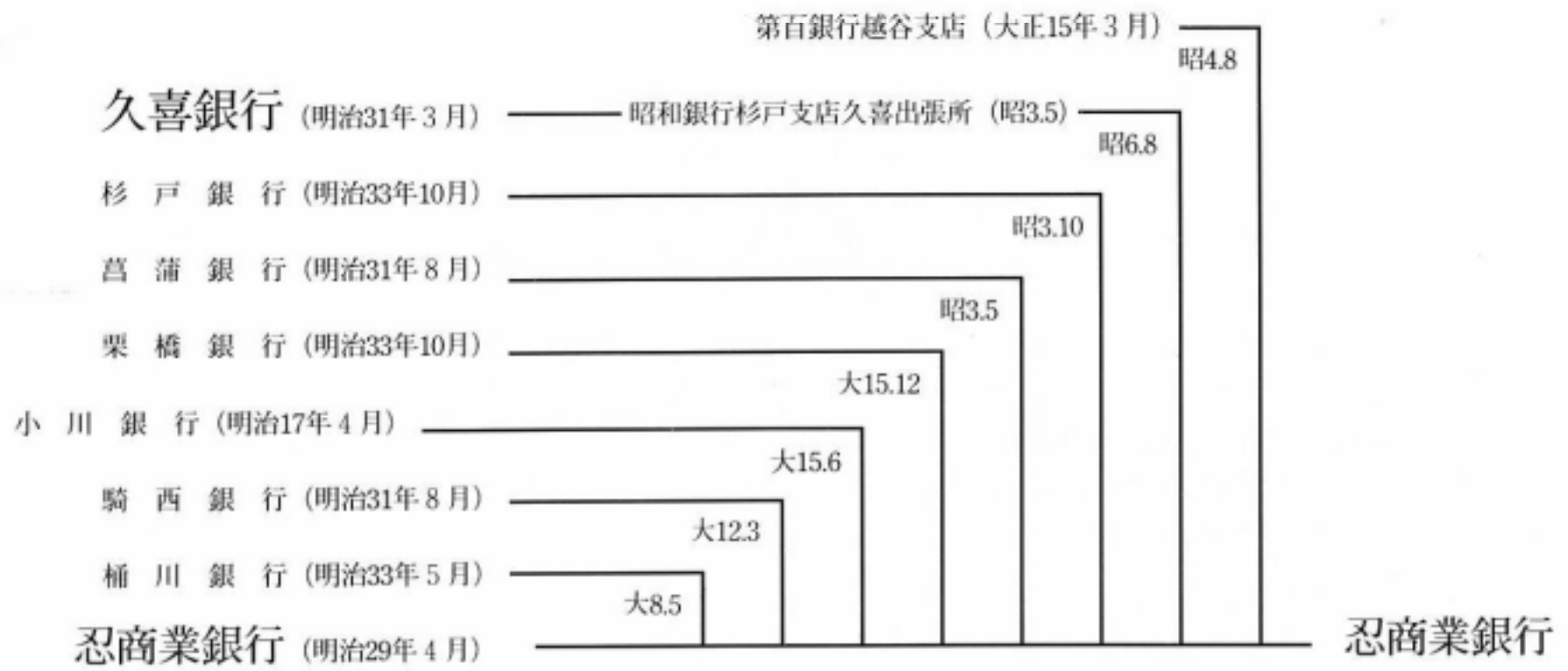
31 久喜銀行解散に付認可申請書 昭和3年

昭和3年5月6日、臨時株主総会で「久喜銀行解散に関する件」が異議なく可決され、同年5月30日付、「銀行解散に付認可申請書」が大蔵大臣宛提出された。これにより、昭和銀行による買収が決定した。



32 忍商業銀行久喜出張所
設置認可申請書 昭和6年

忍商業銀行系統図



36 忍商業銀行本店 (昭和10年頃)

35 忍商業銀行久喜支店 (昭和10年頃)

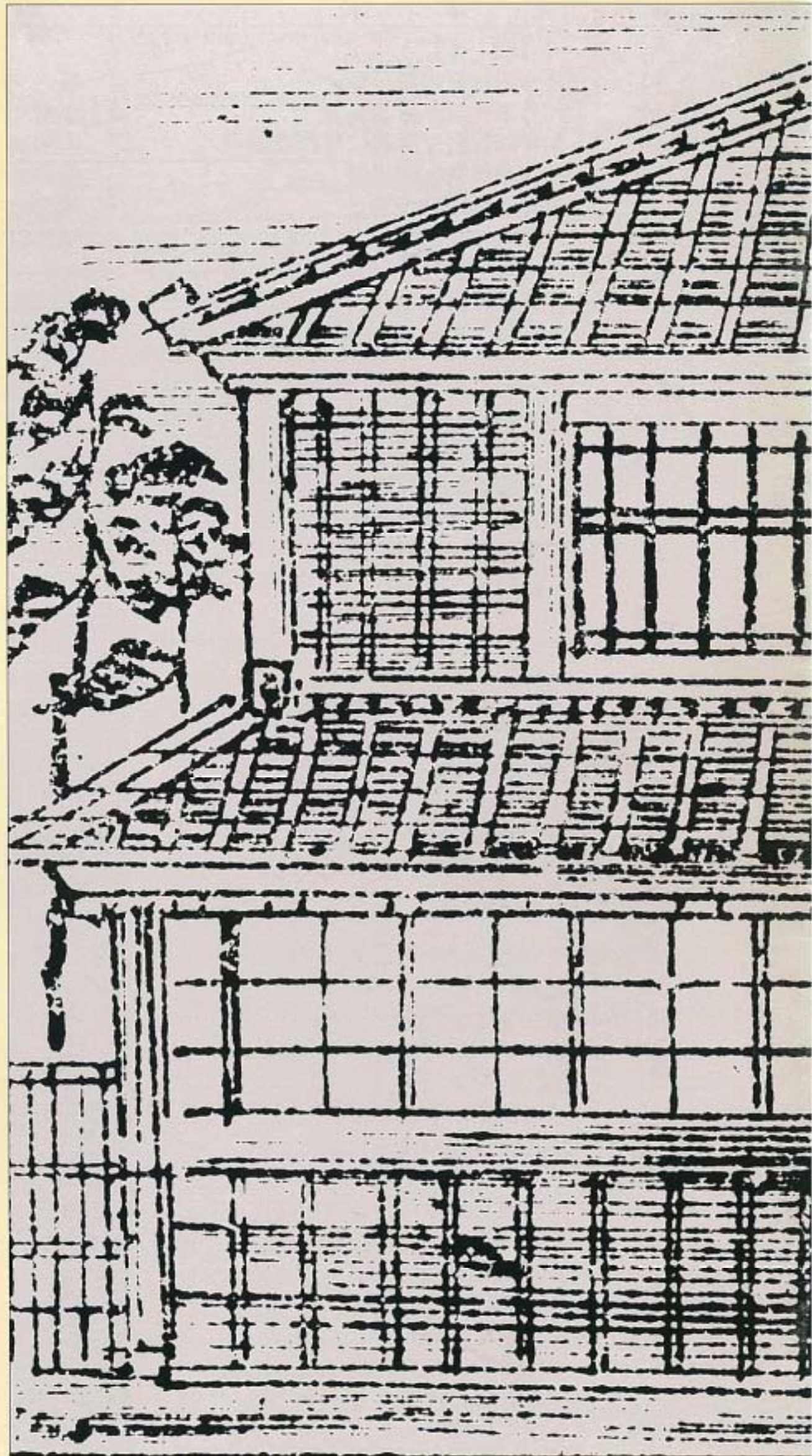
昭和銀行による買収後は杉戸支店久喜出張所として営業を続けたが、その後忍商業銀行に再び譲渡されていった。そして、昭和9年2月、忍商業銀行久喜支店として営業を開始した。

展示資料目録

番号	資料名	年代	出典・文書番号
【創業】			
1	久喜銀行発起認可願	明治30年9月	武井 友幸家 119
2	久喜銀行設立目論見書	明治30年9月	武井 友幸家 122
3	久喜銀行設立発起に付調査報告	明治30年10月	埼玉県行政文書
4	久喜銀行発起認可書	明治30年11月	武井 友幸家 120
5	久喜銀行申合規則	明治31年3月	武井 友幸家 99
6	久喜銀行開業広告	明治31年	榎本 善之助家 1713
【定款】			
7	久喜銀行仮定款	明治31年1月	武井 友幸家 108
8	久喜銀行定款	大正6年4月	武井 友幸家 110
【創立会・株主総会】			
9	創業總會決議録	明治31年1月	武井 友幸家 121
10	創業費計算報告	明治31年1月	武井 友幸家 121
11	株主定時及び臨時總會決議録	明治44年	武井 友幸家 104
【貯蓄銀行】			
12	久喜銀行貯蓄銀行転業認可願	明治33年7月	埼玉県行政文書
13	貯蓄銀行事業認可書	明治33年9月	武井 友幸家 120
【株式・取引】			
14	株式預り証	明治31年7月	榎本 善之助家
15	久喜銀行株券(1株券)	大正6年	斉藤 文平家
16	久喜銀行株券(5株券)	大正11年	斉藤 文平家
17	第4期配当金明細帳	明治33年12月	武井 友幸家 113
18	約定書	明治31年3月	武井 友幸家 125
19	当座預金通帳		斉藤 文平家
20	小切手綴		榎本 善之助家
21	封筒		榎本 善之助家
【営業報告書】			
22	第1期営業報告書	明治31年7月	武井 友幸家 1
23	幸手支店営業報告書	明治33年7月	武井 友幸家 4
24	第22期営業報告書	明治42年1月	武井 友幸家 24
25	第28期営業報告書	明治45年1月	武井 友幸家 37
26	第39期営業報告書	大正6年7月	武井 友幸家 49
27	第49期営業報告書	大正11年7月	武井 友幸家 66
28	第52期営業報告書	大正12年12月	武井 友幸家 69
【休業・整理】			
29	久喜銀行臨時休業日誌	昭和2年3月	武井 友幸家 115
30	承諾書	昭和3年4月	武井 友幸家 118
31	久喜銀行解散に付認可申請書	昭和3年	埼玉県行政文書
32	忍商業銀行久喜出張所設置認可申請書	昭和6年7月	埼玉県行政文書
【写真】			
33	久喜銀行設立発起人		
34	株式会社久喜銀行		
35	忍商業銀行久喜支店		埼玉県立文書館
36	忍商業銀行本店		埼玉県立文書館
【その他】			
37	東京織物問屋同業組合買継商看板		斉藤 文平家
38	『埼玉県営業便覧』		

協力者(敬称略・順不同)

榎本 善之助 日下部 万亀子 小島 雅郎 斉藤 文平 嶋田 実 瀬田 梧郎
 武井 友幸 埼玉県立文書館



34 株式会社 久喜銀行（開業当時）

公文書館利用案内

開館時間・九時から十七時 休館日・土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始

（企画展期間中は、日曜日も開館します）

交通案内・JR宇都宮線、東武伊勢崎線 久喜駅西口下車徒歩十七分（市役所西側）